

打合せ記録簿（1/5）

件名	土岐市まちなか未来会議	
日時	令和7年1月29日（水）14:00~16:00	
場所	土岐市役所 2階会議室	
出席者 （敬称略）	委員	名古屋都市センター特任アドバイザー 加藤 義人 泉町連合区会 加納 弘夫、土岐商工会議所 石黒 信彦 土岐市観光協会 山村 公秀 土岐青年会議所 加藤 大祐 土岐市公私立こども園長会 加藤 隆浩 市民ワークショップファシリテーター 三田 祐子 土岐市 鷲見 直人
	土岐市	林理事、水野公室長、堀尾課長、中垣課長補佐、井本
	UR リンケージ	瀬木、山川、一木、西口(記)

議事録

議題

（委員長）

本日の未来会議は、3つの論点（「まちなかの将来像」「まちなか居住に向けた考え方」「まちづくりの方向性」）について皆さんのご意見を頂戴したい。

議題1. 第1回 土岐市まちなか未来会議の振り返り

（土岐市）

第1回土岐市まちなか未来会議について、資料1に基づき報告。

議題2. 第2回 土岐まちなかワークショップ開催結果について

（三田委員）

12/22(日)に行われた第2回『土岐まちなか市民ワークショップ』の概要について、資料2に基づき報告。

- ・ワークショップはNPO等を中心に16名が参加し、やりたいことで3グループに分かれて実施した。
- ・第2回ワークショップでは、『まちなか』で私たちの『関わり方』や20年後の2045年までの時間を意識した話し合いが行われた。
 - ・「健康」で集まったグループ：あるものを生かして運動やアートができる老若男女が楽しめる『公園のような』まちなか
 - ・「にぎわい」で集まったグループ：シン・公民館（市内の人が行きたい場所、人と人が触れ合う場所ふれあいが安らぎをもたらす場所）
 - ・「子育て」で集まったグループ：プラッとフォーム（20年後、子育てをスムーズにするために、今何ができるか。人の話を聞く人（ほやねさん）を育てる、相談の場等）

（委員長）

総括すると、居場所づくりがポイントとなる。小さくても多様な方が集まれる場所が点在していることが望ましい。

打合せ記録簿（2/5）

議題3. 第2回 土岐まちなか未来会議の論点について

「論点① まちなかの将来像」については、委員から以下のような意見が上げられた。

(UR リンケージ)

資料4に基づいて説明。

(委員長)

ここに賛同できる。ここが足りないという意見があればお願いしたい。

- ・オープンをキーワードに、大きな公園、目的が無くてもいろいろなことが出来る場所が必要。回遊性が出て、まちににぎわいも生まれる。
- ・すべて良いが、前から言われている内容。実現することを考えたい。
- ・これまでも話があったことについては実現できていない理由を明らかにする。また、駅周辺は規制もあり、できないことも多いため、その整理が必要
- ・何かやるとしても、取捨選択とどうやって実現していくのかが重要。
→ (委員長) 重要な話、常に念頭において議論したい。
- ・魅力を上手く発信する。これと決めて、どう実現するかを深掘りしたい。
- ・子どもと遊ぶときに多治見の公園に行くが、どういった公園に魅力があるかの分析も重要。
- ・アウトレットのおかげで来街者は多い。訪れたいためには、そこにどう訴求するか。
→ (委員長) 理想とするものと、リアリティのある内容をちりばめる。
アウトレットに来ていても土岐に来ていない意識が無い。これはもったいない。
- ・来街者に対する資源が土岐市にはある。観光やアウトレットの集客をまちに流すには、駐車場不足の解消が必要。
- ・作陶体験など外国人に来てもらえるところがあるとよい。
- ・空いている建物・場所を活用し、お酒を飲めるスポットを設け、そこでは美濃焼のジョッキがもらえるなど、楽しんでもらう場所があれば、自然と人が増えていくのではないか。
→ (委員長) 来訪者に向けたホスピタリティも念頭に置く。
- ・にぎわい+αで考える必要がある。例えば健康など。スポーツジムでも、半分は健康、半分は井戸端会議が目的。こういうものが街中にあると面白い。市の援助を受けながら、そうした取組を始めているところもある。すぐに始められるもの。そういうところから始めるのも手。

(委員長)

- ・美濃焼文化とDX、公園と屋内、大型商店と個人商店、定住人口と流動人口などコントラストを上手く利かすと魅力につながる。
まちなかでコンポジットしていくことが土岐らしさにつながるのではないか。
- ・コワーキングでも、モニタを設置しておく、カフェを併設することで魅力が向上する。従来型のものに未来型のものを加えられるとよい。
- ・道路の歩道などすべての道路を拡幅するのではなく、絞ったうえでシンボリックなウォークアブルストリートを整備するなどの視点も必要。
- ・土岐川で過ごすにしても、どこに拠点を置くかを考え、その必要性を明らかにすることでリアリティが出てくる。
- ・自動運転等未来的な内容も理想として構想に位置付けていただきたい。

打合せ記録簿（3/5）

「論点② まちなか居住に向けた考え方」については、委員から以下のような意見が上げられた。

（UR リンケージ）

資料5に基づいて説明。

- ・若年層の居住を促すための住宅団地等の整備の予定はあるか？土岐市の居住可能地をアピールすることも大事では？
- ・名古屋に住んでいる人が来られるような居場所づくりとプロモーションを考えてほしい。
 - （土岐市）大規模な開発は考えていないが、駅前の空地活用することを考えている。
 - （委員長）構想策定後に具体案を考えていただきたい。また、そのプロモーションも重要。
- ・東濃で大学院を誘致する計画、新病院に産婦人科の計画、将来的に決まっているのであれば、そう言うことアピールすることも必要では。
 - （土岐市）大学院は計画として決まっていない、新病院に産科は設置する方向。プロモーションについては考えたい。
- ・まちなか居住を促進し居住人口を増やすには、駅1km圏では狭いのでは？
 - （土岐市）駅周辺の満足度が低いことや賑わいが少ないことが課題であり。まず駅前の夜間人口を増やすことを考えたい。
- ・圏域での住宅の確保状況や空き地の状況など把握し、アピールしていくのか？
 - （土岐市）立地適正化計画を策定しており、居住地として集中させたい。
 - （委員長）まちなかの魅力向上により、周りに住む人が増えていく。まずは駅周辺に絞って議論したい。2020年から5年間で800人の人口減少があり、それ以上のキャパがあると思われる。
- ・駅北の土日の駐車場を利用して美濃焼を定期的に販売するなどしてはどうか。若者がこうした場所（の運営）に係われるようにすることも必要だと思う。
 - （委員長）夜間人口を増やし、商業につなげていくことには同感である。
- ・全く土岐市のことを知らない人をどのように呼び込むのか。土岐市にゆかりにある人であれば、インセンティブは働きやすい。新博物館の整備など子どもの頃からのシビックプライド醸成の視点も持って動いている。
- ・駅1km圏に関して、土地の細分化、戸建てのミニ開発が行われると、人口増加にはつながらないのではないかと思う。
- ・土岐市に住みたくなるためのまちなかとは何かを考えるのが重要で、まちなかが魅力的でない人は住まない。多治見を研究し、多治見にないから土岐というのではない。
- ・商業地域を住宅地開発することで空き地はなくなるが、それで良いのか。
 - （委員長）不動産市場としてのマッチングの問題である。今回は、土岐の駅前に住んでもらう、選択してもらうには、駅前に何があればということに知見をいただきたい。
- ・大規模な集合住宅を計画しているのか？
 - （委員長）居住形態ではなく、住んでもらうためにどういう仕掛けがいるか検討する段階。例えば子育ての世代が土岐を選んでもらうときに何があるのが良いのか。

（委員長）

- ・居場所がキーワードになっている。若者・子供・親・高齢者等の居場所が様々な形で必要。つまり、居場所が中長期にあってはダメではないか。短期に持ってくるべき。
- ・居場所の中に短期のもの、中長期のものがある。細分化してパターン化することが必要。

打合せ記録簿（4/5）

- ・店舗をつくるのは無理なので、夜間人口を増やすところからというのは変わらない。
- ・自然環境もひとくくりにする则焦点がボケる。短期と中長期に括り、短期で特化してできることを考える必要がある。
- ・土岐市駅には JR とバスなどスマートな結節性が中長期的に求められる。

「論点③ まちづくりの方向性」については、委員から以下のような意見が上げられた。

(UR リンテージ)

資料6に基づいて説明。

(委員長)

- ・①は別に進められているので、②～⑤についての意見を聞きたい。
- ・行政がどうしたいかという方針が大事。行政が実行主体になるのは難しいため、まちづくり会社等が実行の主体となるが、行政も実行までいけるよう取り組んでいただきたい。
- ・アウトレットに 1000 万人がきている、そういうポテンシャルのあるまち、行政の責任が大事。
- ・行政単独では良いものになっていかない。検討場所には地権者や住民がいるため、関わる方々の意見を伺いながら市は支援する形で進めるべきと考える。
- ・現在ある資源、これから創るものを整理し、実行主体など考えながら一緒に進めていきたい。
→ (委員長) 先ほどの議論で、公でやるもの民でやるもの、いろいろある。例えば BASE であれば、類型化してほしい。公園であれば、公でしかできない。公でやるべきものは公で覚悟がある。
- ・同じ土岐市に住んでいるが、泉地区だけでなく、他地区の人がどう関わっていくかがポイント。美濃焼など各地で分散しているものを駅前に集約して販売できるようなアンテナショップ、相互協力していく視点を入れて、協力関係のきっかけにはどうか。
- ・駅の空地は、売りに出ているものは戸建てとしてすぐに動く印象。法規制として何かあるところが空き地で残っている。単に住宅地として戸建て開発することが本当に良いことか。
→ (土岐市) 駅のすぐそばが住宅地になることは良いとは思っていない。居場所づくりを第 1 義にしつつ、住みたい印象を高めることが重要と考えている。市の土地で単なる住宅地開発をするということも考えていない。まちのにぎわいをつくりながら、銀行、商店などのインフラを維持するための人口維持が必要。
→ (委員長) 空き地・空き家をすべて住宅にするという目論見ではない。商業優先は難しいので、いかに住宅を誘導するかの議論になる。
- ・民間主導の場合、儲けに走ってしまうことがあるため、行政として、将来の姿を描き、ロードマップを作成していただきたい。
→ (委員長) 誘導・規制は都市計画マスタープランや立地適正化計画でやっていく。今回の会議ではその前段のコンセプトチュアルな部分で議論をしている。
- ・現実可能なところの議論ができると嬉しい。
- ・国内外の来街者、市民を含め、1 日過ごせるように滞在を促すことは大事な視点。
→ (委員長) 来街者の滞留も必要であり、そこから居住につながることもある。
- ・昔の土岐市駅を思うとやはり衰退している。まちなか居住により空き地が住宅になることで、居場所となる場所が減ってしまうことにならないか。

打合せ記録簿（5/5）

（委員長）

- ・エリアの構成に異論はない。
- ・具体的な方策等については次回議論いただくことになる。資料6-2をベースに例示的に示していただけると理解しやすい。地理的に特定できるものがあれば落とし込んでいただきたい。
- ・学びとくつろぎのエリア等、URリンクージから提案してほしい。

（副委員長）

- ・すべてのシーンを進めるのも簡単ではない。今あるものの中で何を優先していくのか、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

（委員長）

- ・長期の視点を落とすと消化不良感が出るので、それも含め、ロードマップを整理してほしい。

その他

今回は令和7年3月を予定。2月9日には第3回ワークショップを予定しており、その結果も報告させていただく予定。

以上